十菱駿武教授のご退職に寄せて

政治行政学科長　丸　山　正　次

十菱駿武教授は、平成二四年三月をもって山梨学院大学を定年退職されました。

十菱先生は、早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程を修了後、昭和六〇年四月に本学商学部に助教授として赴任され、その後昭和六一年四月からは同学部教授となり、昭和六三年四月からは一般教育部の所属となられました。その後、一般教育部の学内改組に伴って平成一五年四月より法学部政治行政学科の所属となられ、ご退職は同学科で迎えられました。

先生のご専門は日本考古学でしたが、先生の歴史への関心は先史時代に限定されてはおらず、中世・近世、さらには現代にまで及んでおられました。そうしたなかで、特に印象深いご研究としては、鉱山遺跡（とくに水晶鉱山）と戦争遺跡のご研究が挙げられると思います。前者については、先生ご自身「水晶の考古学」に力を注がれ、山梨県内外で多くの実地調査をされてきました。また後者については、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」の代表も務められるなど、アカデミズムの枠を超えた活動を実践されてきました。

私が十菱先生とごいっしょさせていただいた学科教育の中で思い出すことは2点ほどあります。一つは、大学の考古学研究会の顧問としてのご活躍です。学生のサークル活動としてのこの研究会は、県内及び近県の縄文遺跡、

古墳、鉱山遺跡、戦争遺跡の発掘や測量・分布調査を行っていましたが、この研究会の調査を現地で指導されていたのが、十菱先生でした。私のゼミ生にも「考古研」の学生が何名かいましたが、夏期休業中の野外での発掘のたいへんさと共に、十菱先生による直接のご指導の懇切さを皆が口々に語っていました。卒業式後のゼミ生との懇談でも、ゼミ活動よりもサークル活動の「熱い（暑い）思い出」のほうが強いようでした。

また、もう一つ思い出すことは、現在では取りやめになってしまいましたが、新入生をつれた県内視察での先生の適確なアイデア提示とガイド役の徹底ぶり、そして現場での健脚です。この視察は入学直後に学科単位で実施しましたが、二〇〇人を超える人数での視察では、駐車場や食事の問題など、現地を知らないと計画できないことばかりでした。また、見るべきもの（教育的な意味で）についても歴史的知識が不可欠でした。これらに関して、十菱先生が助言してくださり、さらに現地でのガイドまで率先して行ってくださいました。日にちを分けて行った時には、たしかどの旅程にも参加してくださったと思います。

どちらの思い出も、考えてみると、先生の学生指導についてのことでした。先生のこうした熱い姿勢は私もぜひ見習いたいと思います。

終わりに、十菱先生には、ますますお元気で、さらなるご研究とご活躍をされることを願っております。